近代社会における大相撲力士の身体表象：覇権性,男性性,〈日本〉性を巡って

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川野, 佐江子 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4441

近代社会における大相撲力士の身体表象
―覇権性、男性性、〈日本〉性を巡って―

学芸学部　化粧ファッション学科　川野佐江子

【研究目的】

本研究の目的は、公益財団法人日本相撲協会に所属する力士たちが、現代社会においてどのように表象されてきたのかを調査し、そのことから「大相撲の力士」に表れる「覇権的男性性」をあぶり出すと同時に、その覇権性にまつわる〈日本〉らしさの表象について考察することである。この「覇権的男性性」とは、R. W. コンネルが『ジェンダーと権力：セクシュアリティの社会学』（三交社 1993）で男性性の構造を示した 4 つの類型モデル「覇権的男性性」「従属的男性性」「共犯的男性性」「周辺的男性性」のうちの一つである。このコンネルの、男性性の構造モデルは、それまで一つの塊として捉えられてきた「男性性」が、その内部に権力関係を基盤としたいくつかの層を持っていることを示し、その階層による分析で、以降のジェンダー論とりわけ男性学に大きな影響を与えた。本研究では、このコンネルの男性性の構造モデルを、権力関係のモデルとして捉え、現代社会において、力士がどのような権力関係の中に表象されてきたのかを明らかにする。

【研究の背景】

これまで筆者は、大相撲における男性性の表象について、戦後高度経済成長期に「柏鵬時代」という相撲ブームを牽引した横綱柏戸を中心に調査を行ってきた。その中で、メディアにおける柏戸表象は常に「男らしさ」「男臭さ」と結びついていたことを明らかにし、特に、戦後の大相撲の人気力士たちはメディアの発達とともにそのメディアへの露出が多くなることで、一般の男性にとって「男の中の男」としての代替表象として消費されていったことを論じてきた。その意味で、力士の表象研究は、コンネルの「覇権的男性性」概念で検討が可能である。ただし、では単純に力士は「覇権的男性性」なのかと言えば、相撲界や力士が一般社会とはある部分で区別されてきた歴史を鑑みれば、むしろ「周縁化された男性性」として分析することも可能である。

また、柏戸に見る「男性性」表象の研究の中では「柏鵬時代」を牽引したもう一人である横綱大鵬の表象についても検討を無視することはできなかった。この柏戸と大鵬の比較検討で、彼らの表象に関わるキーワードとして「男らしさ」の他に、大鵬の出自を巡る「日本人」というワードが見え隠れしていることが重要であることに気がついた。大相撲の表象を考える上で、「日本の伝統」「日本的様式美」「非西欧的身体」など、より「日本的である」ことが強調される中で、近年の海外出身力士たちの増加やそのことにまつわる課題や問題がメディアで取り上げられている情況を踏まえれば、〈日本〉という現代日本における覇権的価値観が強調されるベクトルも力士の身体表象の考察から除外するわけにはいかない。

【研究方法】

以上のような目的と背景から、調査は、NHK アーカイブス学術利用研究から NHK 相撲番組と相撲専門雑誌『相撲』（ベースボール・ルマガジン社）を中心にその言説と画像分析を行う。特に、高度経済成長期に大相撲人気を牽引した柏戸と大鵬の比較と、戦後の外国出身力士の表象から、「男らしさ」と「〈日本〉らしさ」を抽出し分析する。

【結果と考察】

調査の結果、1950 年代は武士道的「やせ我慢」、1960 年代は女性と子ども市場に向けた“若く、美しい男性”へ価値の高まり、1970 年代は国際化推進と同時に逆説的に“伝統的日本”への関心、1980 年代は個の推奨を背景に自由な感情表現、ラフな佇まい、女性受けする美的容姿の重要性、などが各時代の「覇権的男性性」を担保してきたことが分かった。1990 年代はカワイイ文化に象徴される“キャラ化”した「顔の記号化」が始まり、笑顔の裏（生身のわたし）を詮索し合わない社会の到来であったとも言える。どの力士にも“笑顔”という仮面がそこにある。2000 年代以降は、形式張らない“自然体”が増加し、“大人の男”の権威性を喪失させた「屈託のない少年のような笑顔と振る舞い」が人気力士と結びつくことが考察された。以上の結果から、「覇権的な男性性」は常に変容しており、若さと健康志向、自然志向など消費社会が増幅させる現代的欲求が下支えするものであると言える。

一方大相撲における〈日本〉らしさは、1970 年代を境に変化する。大相撲は敗戦国日本の内側に向けたアイデンティティの一つから、国内外に発信する〈日本〉らしさの具現化として、より伝統性や固有性が強調されている。このことは、近年の右傾化社会との関連でさらに考察が必要だと言えるだろう。